



●●●●●●●● S-KYT研修事業を実施して ●●●●●●●●

青森県五所川原市消防団

1 はじめに

五所川原市は、青森県の北西部、津軽平野のほぼ中央に位置し、東は中山山脈を境にして青森市、西は津軽の母なる川として親しまれている岩木川を隔てつがる市、南は鶴田町、板柳町、北は中泊町と5市町に隣接しています。

また、中泊町をはさみ旧市浦村の飛地（面積111.75km²）を併せ総面積404.58km²の土地を有しています。

気候は、日本海型気候で、冬は大陸の発達した高気圧の影響で、北西の季節風が非常に強く、地吹雪が発生しますが、夏は、晴天の日が多く、太平洋岸に多い偏西風（ヤマセ）の影響も少なく、日照、降水量にも恵まれていることから、稲作、りんご等の農産物の発育に非常に適しています。

また、津軽三味線発祥の地であり、作家 太宰治の生家「斜陽館」、中世安東氏の十三湊遺跡群、日本さくら名所100選に選ばれた芦野公園の桜、知名度が全国区となった夏祭り「五所川原立佞武多（たちねぶた）」といった歴史文化資源を擁し、農林水産業を基幹産業とする豊かな自然に恵まれた田園都市であります。

2 五所川原市消防団の沿革

五所川原市の消防は、明治11年10月の郡制施行により、北津軽郡役所が五所川原に設置され、それに伴って翌12年に公立消防組が設置されたことに始まります。

消防団は昭和23年3月に自治体消防の性格を明確にした「消防団令」が公布され、それまでの「五所川原町警防団」から「五所川原町消防団」となったことに始まります。

昭和29年10月1日には、町村合併促進法により1町6村が合併し、市制施行とともに「五所川原市消防団」が誕生し、平成17年3月28日、旧五所川原市、旧金木町、旧市浦村の1市1町1村（飛地）の市町村合併に伴い、消防団組織に五所川原地区、金木地区、市浦地区と三つの地区制を設け、1団、3地区本部、21分団、84部の消防団員数966名（平成22年12月1日現在）で組織し、市民の安心・安全のため消防活動を行っています。

3 S-KYT研修事業を実施した経緯

当市消防団では、入団3年未満の団員及び幹部団員を対象にした消防研修会を毎年開催し、安全管理及び事故防止について指導を行っています。しかし、平成22年度の初めに火災現場



講義



指差し唱和

で続けて2件、ポンプ車操法訓練で1件の公務災害が発生してしまいました。

これに伴い、消防団幹部からは更なる安全管理及び事故防止の対策強化が必要だという意見が出され、対策を検討しておりました。

そんな時、消防団事務担当者を対象にした青森県市町村総合事務組合主催による「消防補償等実務研修会」が開催され、その研修の中で、消防基金の講師の方による消防団危険予知訓練(S-KYT)研修についての説明があり、公務災害防止に有効な研修ではないかと感じました。そこで、この研修会の開催を消防団幹部へ提案

したところ、「事故防止対策強化に繋がる研修会だ、ぜひS-KYT研修を開催しよう」という事になりました。

4 S-KYT研修を実施して

平成22年12月5日(日)午前10時から、階級が班長以上の消防団員130名が参加し、会場を二つに分け4時間にわたる「S-KYT研修」を開催しました。

研修は、1班6、7名で編成した班単位に分かれて行われました。

研修の冒頭で「研修の前に、まず班ごとに自



危険をみんなで考える



タッチアンドコール

己紹介をして下さい」という講師からの発言に、恥ずかしそうに自己紹介をしながら「なんで自己紹介なんてする必要があるのか」とあちこちの班から小声で不平が出ている状況で研修は始まりました。

しかし、DVD視聴、指差呼称、指差唱和など講師からのわかりやすい指導により研修が進むにつれ、受講者の研修に向かう姿勢に変化が起きました。

中でも参加者に一番興味を持たれたカリキュラムは、「消防活動現場の一場面を描いたイラスト」を見てその災害現場活動における危険要因を考察し、班員全員が考えられる危険要因を出し合い、そのなかから危険要因を絞り込み、「どうすればその危険要因を起こさないように未然に防ぐことができるのか」を班員みんなで考えるというものでした。

この研修は講師の話聞くだけでなく、声を大にして唱和して指差し動作をし、参加者自らが考え、行動する等の様々なカリキュラムが

あることから、受講者は研修中のモチベーションを維持し続け、大人数の研修に起こりやすい居眠りや、携帯電話の操作をする者は一人も無く、真剣に取り組んでいました。

また、研修終了後のアンケートには「今後はこの研修で学んだ事を分団でも取入れていきたい」という積極的な意見が多く、安全管理及び事故防止の対策強化にとっても効果のあった研修であったと確信しております。

5 今後の取り組みについて

消防団の仕事は突発的で多様な変化を伴う危険に立ち向かう作業であるため、様々な場面で事故が発生しやすい状況にあると思われます。

これらの事故を未然に防止するためにも、今後は定期的にこの「S-KYT」研修を開催し、「公務災害ゼロ」を目指し、消防団員一人一人の安全管理意識の高揚を図ってまいりたいと考えております。



発表



合同でタッチアンドコール